

〔第147回簿記検定試験問題 解答・解説〕

第1問

【解答】

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	旅費交通費	30,000	現金過不足	20,000
	雑損	8,000	受取手数料	18,000
2	租税公課	368,000	現金	590,000
	資本金	222,000		
3	前受金	40,000	売上	428,000
	売掛金	388,000		
	発送費	5,000	現金	5,000
4	受取利息	36,000	未収利息	36,000
5	未収入金	1,560,000	有価証券	1,540,000
			有価証券売却益	20,000

【解説】

1. 現金過不足勘定の整理に関する仕訳を問う問題である。 新版日商簿記 3 級テキスト p.169 ①
- ・旅費交通費¥30,000、受取手数料¥18,000 の記入漏れが判明したので、現金過不足勘定から旅費交通費勘定と受取手数料勘定へ該当する金額を振り替える。

(借) 旅費交通費	30,000	(貸) 現金過不足	30,000
(借) 現金過不足	18,000	(貸) 受取手数料	18,000
 - ・決算日に現金過不足勘定を精算する（ゼロにする）ため、現金過不足勘定残高（借方¥8,000）を雑損勘定に振り替える。

(借) 雑損	8,000	(貸) 現金過不足	8,000
--------	-------	-----------	-------
2. 税金の納付に関する仕訳を問う問題である。 新版日商簿記 3 級テキスト p.121 ①
- ・固定資産税は費用として認められる税金であるので、納付した時は租税公課勘定または固定資産税勘定（いずれも費用）で処理する。

(借) 租税公課	368,000	(貸) 現金	368,000
----------	---------	--------	---------
 - ・所得税の納付は資本の引出しとなるので資本金勘定または引出金勘定で処理する。

(借) 引出金	222,000	(貸) 現金	222,000
---------	---------	--------	---------

3. 内金および掛けによる商品売り上げの仕訳を問う問題である。

新版日商簿記 3 級テキスト p.110

・商品¥428,000 を売り渡し (貸) 売上 428,000

・注文時に受け取った手付金¥40,000 と相殺したので、前受金 (負債) の減少となる。

(借) 前受金 40,000

・残額は掛けであることから (借) 売掛金 388,000

・当店負担の発送費を現金で支払ったので

新版日商簿記 3 級テキスト p.76, 77 POINT

当店負担の発送費…発送費勘定 (費用)

先方負担の発送費…売掛金勘定に加算または立替金勘定で処理する。

(借) 発送費 5,000 (貸) 現金 5,000

4. 未収収益の再振替仕訳に関する仕訳を問う問題である。

新版日商簿記 3 級テキスト p.167 ②

・決算日に未収利息を計上したときの仕訳 (借) 未収利息 36,000 (貸) 受取利息 36,000

・期首に再振替仕訳をしたときの仕訳 (借) 受取利息 36,000 (貸) 未収利息 36,000

(決算日の逆仕訳)

5. 株式 (有価証券) の売却に関する仕訳を問う問題である

新版日商簿記 3 級テキスト p.101 ②

※株式の売買は有価証券勘定 (資産) で処理する。

・有価証券を売却したときは、帳簿価額 (¥1,540,000) で有価証券勘定の貸方に記入する。

(貸) 有価証券 1,540,000

・代金は後日受け取る。 (借) 未収入金 1,560,000 ←@¥780 × 2,000 株

・手取額と帳簿価額の差額は有価証券売却益勘定 (収益) または有価証券売却損勘定 (費用) で処理する。

(貸) 有価証券売却益 20,000

第2問 取引がどの補助簿に記帳されるかを問う問題である。

【解答】

(1) 商品有高帳
A 商品

平成 29年	摘要	受 入			払 出			残 高			
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	
10	1	前月繰越	80	210	16,800				80	210	16,800
	8	仕 入	200	217	43,400				280	215 ①	60,200
	15	売 上				230	215 ②	49,450	50	215	10,750
	22	仕 入	250	221	55,250				300	220	66,000
	29	売 上				240	220	52,800	60	220	13,200
	31	次月繰越				60	220	13,200			
			530		115,450	530		115,450			

(2)

純売上高	売上原価	売上総利益
¥ 152,700	¥ 102,250	¥ 50,450

【解説】

(1)

1. 移動平均法による商品有高帳の記入

新版日商簿記 3 級テキスト p.83(2)

確認 商品有高帳を作成するときのポイント次のとおりである。

- ① 商品の種類ごとに記帳する（この問題はA商品に関する問題である）
- ② 単価・金額は原価で記入する → 15日、29日の@¥は売価であるから使用しない。
- ③ 売上値引きは記入しない → 売上値引きは売価の修正であるため商品有高帳には記帳しない。

新版日商簿記 3 級テキスト p.83 参考

移動平均法は異なる単価の商品を仕入れたとき平均単価を計算し、払出単価（払出欄の単価）とする方法である。

- ・ 10/1 残高欄の単価は¥210、10/8 の仕入単価は¥217、単価が異なるので平均単価を求める。

平均単価の計算 (①)

$$\frac{¥16,800 \text{ (10/1 の残高欄の金額)} + ¥43,400 \text{ (10/8 の受入欄の金額)}}{80 \text{ 個 (10/1 の残高欄の数量)} + 200 \text{ 個 (10/8 の受入欄の数量)}} = @¥215$$

- ・ @¥215 が 10月15日の払出欄の単価となる (②)。
- ・ 10/31 の売上値引については記帳しない。

(2)

新版日商簿記 3 級テキスト p.82 参考

	10 月 15 日	10 月 29 日	
総売上高	230 個 × @¥320 + 240 個 × @¥330		= ¥152,800
純売上高	総売上高	10 月 31 日	
	¥152,800	− 10 個 × @¥10	= ¥152,700
売上原価	10 月 1 日前月繰越	当期商品仕入高	10 月 31 日次月繰越
	80 個 × @¥210	+ (200 個 × @¥217 + 250 個 × @¥221)	− ¥13,200 = ¥102,250
売上総利益	純売上高	売上原価	
	¥152,700	− ¥102,250	= ¥50,450

第3問 6月30日の残高試算表と7月中の取引にもとづいて、7月末の残高試算表を完成する問題である。

【解答】 注. イタリック体はあらかじめ答案用紙に書かれている金額である。

残 高 試 算 表

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
7月31日	6月30日		6月30日	7月31日
288,000	<i>360,000</i>	現 金		
1,578,000	<i>620,000</i>	普 通 預 金		
70,000	<i>50,000</i>	当 座 預 金		
62,000	<i>50,000</i>	売 掛 金		
<i>270,000</i>	<i>270,000</i>	繰 越 商 品		
12,000	<i>8,000</i>	仮 払 金		
<i>1,320,000</i>	<i>1,320,000</i>	建 物		
970,000	<i>620,000</i>	備 品		
<i>2,200,000</i>	<i>2,200,000</i>	土 地		
		支 払 手 形	<i>100,000</i>	60,000
		買 掛 金	<i>830,000</i>	961,000
		未 払 金	—	15,000
		所 得 税 預 り 金	<i>45,000</i>	9,000
		借 入 金	—	1,200,000
		資 本 金	<i>4,520,000</i>	<i>4,520,000</i>
		売 上	<i>5,980,000</i>	7,186,000
5,534,000	<i>4,570,000</i>	仕 入		
<i>455,000</i>	<i>455,000</i>	支 払 手 数 料		
964,000	<i>800,000</i>	給 料		
65,000	<i>50,000</i>	水 道 光 熱 費		
41,000	<i>30,000</i>	通 信 費		
60,000	<i>42,000</i>	旅 費 交 通 費		
45,000	<i>20,000</i>	消 耗 品 費		
13,000	<i>10,000</i>	租 税 公 課		
4,000	—	支 払 利 息		
13,951,000	<i>11,475,000</i>		<i>11,475,000</i>	13,951,000

【解説】 解答の手順

1. すべての勘定記録を仕訳に置き換える。なお、重複取引については一方の取引を取り消す。

例えば、①と②が同一取引である。この場合、現金勘定では借方の現金を残し、貸方の売上を削除する。
もちろん、①と②のいずれか一方の仕訳を取り消しても構わない。 新版日商簿記 3 級テキスト p.138

(1) [現金に関する事項]

a. (借) 現金	1,146,000	=(貸) 売 上	1,146,000	① -----
b. (借) 租 税 公 課	3,000	(貸) 現 金	3,000	
c. (借) 発 送 費	2,000	(貸) 現 金	2,000	
d. (借) 通 信 費	1,000	(貸) 現 金	1,000	
e. (借) 普 通 預 金	1,180,000	(貸) 現 金	1,180,000	
f. (借) 仮 払 金	32,000	(貸) 現 金	32,000	

(2) [普通預金に関する事項]

a. (借) 普 通 預 金	1,180,000	=(貸) 現 金	1,180,000	
b. (借) 普 通 預 金	50,000	(貸) 売 掛 金	50,000	
c. (借) 普 通 預 金	1,196,000	=(貸) 借 入 金	1,200,000	
	支 払 利 息		4,000	
d. (借) 買 掛 金	773,000	(貸) 普 通 預 金	773,000	
e. (借) 備 品	350,000	(貸) 普 通 預 金	350,000	
f. (借) 給 料	164,000	(貸) 所 得 税 預 り 金	9,000	
		普 通 預 金	155,000	
g. (借) 所 得 税 預 り 金	45,000	(貸) 普 通 預 金	45,000	
h. (借) 通 信 費	10,000	(貸) 普 通 預 金	25,000	
	水 道 光 熱 費		15,000	
i. (借) 当 座 預 金	120,000	(貸) 普 通 預 金	120,000	

(3) [ICカードに関する事項]

a. (借) 仮 払 金	32,000	=(貸) 現 金	32,000	
b. (借) 旅 費 交 通 費	18,000	(貸) 仮 払 金	18,000	
c. (借) 消 耗 品 費	10,000	(貸) 仮 払 金	10,000	

(4) [売上げに関する事項]

a. (借) 現 金	1,146,000	(貸) 売 上	1,146,000	② -----
b. (借) 売 掛 金	60,000	(貸) 売 上	60,000	

(5) [仕入れに関する事項]

a. (借) 仕 入	60,000	(貸) 支 払 手 形	60,000
b. (借) 仕 入	910,000	(貸) 買 掛 金	910,000
c. (借) 買 掛 金	6,000	(貸) 仕 入	6,000

(6) [その他の事項]

a. (借) 支 払 手 形	100,000	(貸) 当 座 預 金	100,000
b. (借) 普 通 預 金	1,196,000	(貸) 借 入 金	1,200,000
	支 払 利 息		4,000
c. (借) 消 耗 品 費	15,000	(貸) 未 払 金	15,000

2. 残高試算表を作成する。

- ・各勘定科目ごとに、6月30日の残高に上記仕訳を加減し、7月31日の残高を求める。
- ・(例) 現金勘定

	6月30日残高	(1) a	(1) b	(1) c	(1) d	(1) e
7月31日残高	¥360,000	+	¥1,146,000	-	¥3,000	-
		(1) f				
						-
						¥32,000 = ¥288,000

(例) 支払手形勘定

	6月30日残高	(5) a	(6) a
7月31日残高	¥100,000	+	¥60,000
			-
			¥100,000 = ¥60,000

- ・最後に借方の合計と貸方の合計が¥13,951,000 で一致していること確かめる。

第 4 問 支払手数料に関する仕訳（費用の繰延べを含む）と、それに関する勘定への記入・締め切りを問う問題である。

新版日商簿記 3 級テキスト p.161

【解答】

支払手数料

(4/11) (普通預金) (300)	(12/31) (前払手数料) (40,000)
(12/1) (現金) (60,000)	(") (損益) (20,300)
(60,300)	(60,300)

前払手数料

(12/31) (支払手数料) (40,000)	(12/31) (次期繰越) (40,000)

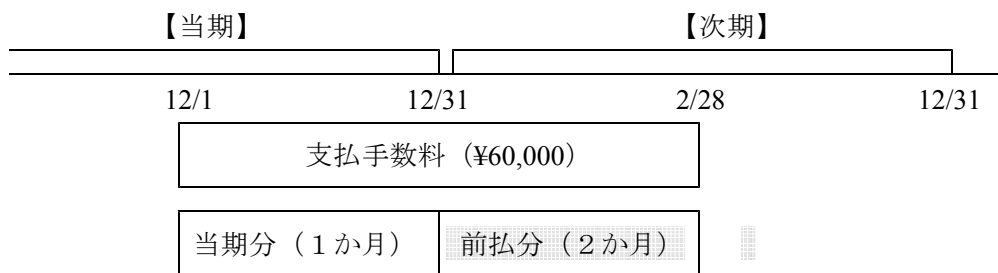
【解説】 解答の手順

取引の仕訳

4月11日 (借) 未払金 70,000 (貸) 普通預金 70,300
 支払手数料 300
 7月26日 (借) 土地 1,215,000 (貸) 当座預金 1,200,000
 現金 15,000

※固定資産（土地）が使用できるようになるまでにかかった付随費用（購入にあたっての仲介手数料、整地費用など）は固定資産の取得原価に含める。

12月1日 (借) 支払手数料 60,000 (貸) 現金 60,000
 12月31日 (借) 前払手数料 40,000 (貸) 支払手数料 40,000



▲
 手数料3か月分支払い

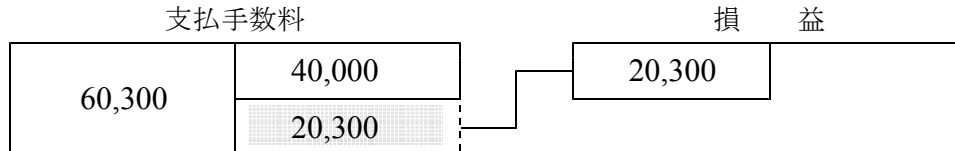
※支払手数料¥60,000のうち前払分に相当する¥40,000 (¥20,000 × 2) を支払手数料勘定から前払手数料勘定 (資産) に振り替える。

勘定の締め切り

《復習》決算日における帳簿の締め切り（帳簿決算）の手順

- ①収益の勘定を損益勘定に振り替える。
- ②費用の勘定を損益勘定に振り替える。
- ③損益勘定の残高を資本金勘定に振り替える。
- ④全ての勘定を締め切る。このとき、資産・負債・資本の勘定については、繰越記入を行う。

1 2 月 3 1 日 (借) 損益 20,300 (貸) 支払手数料 20,300 … 上記②



なお、前払手数料勘定は資産の勘定であるから、「12/31 次期繰越 残高」を貸方に記入して締め切る。… 上記④

第5問 精算表の作成が問われている。

【解答】

精 算 表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	89,000						89,000	
普通預金	369,000		13,000	38,000			344,000	
売掛金	270,000			20,000			250,000	
仮払金	30,000			30,000				
繰越商品	226,000		189,000	226,000			189,000	
建物	870,000						870,000	
備品	360,000						360,000	
土地	900,000						900,000	
買掛金		198,000	38,000					160,000
前受金		68,000	20,000					48,000
貸倒引当金		3,000		2,000				5,000
建物減価償却累計額		522,000		29,000				551,000
備品減価償却累計額		180,000		90,000				270,000
資本金		1,234,000						1,234,000
売上		4,890,000				4,890,000		
受取家賃		45,000	15,000			30,000		
仕入	2,560,000		226,000	189,000	2,597,000			
給料	1,300,000		37,000		1,337,000			
通信費	39,000				39,000			
旅費交通費	27,000		17,000		44,000			
保険料	100,000			40,000	60,000			
	7,140,000	7,140,000						
貸倒引当金繰入			2,000		2,000			
減価償却費			119,000		119,000			
(前払)保険料			40,000				40,000	
前受家賃				15,000				15,000
未払給料				37,000				37,000
当期純(利益)					722,000			722,000
			716,000	716,000	4,920,000	4,920,000	3,042,000	3,042,000

【解説】

未処理事項・決算整理事項

1. 取引の未記帳

(借) 買掛金 38,000 (貸) 普通預金 38,000

2. 仮払金の精算取引の未記帳

新版日商簿記 3 級テキスト p.114

(借) 旅費交通費 17,000 (貸) 仮払金 30,000
 普通預金 13,000

3. 訂正仕訳

新版日商簿記 3 級テキスト p.124

(借) 前受金 20,000 (貸) 売掛金 20,000

※ 訂正仕訳は次の手順で行う。

1. 間違って行われた仕訳を取り消すための仕訳 (借) 前受金 20,000 (貸) 現金 20,000
2. 本来行われるべき仕訳 (借) 現金 20,000 (貸) 売掛金 20,000
3. 上記 1 と 2 が解答になる。なお、借方と貸方の現金は相殺するのが一般である。

4. 貸倒引当金の設定

新版日商簿記 3 級テキスト p.148

(借) 貸倒引当金繰入 2,000 (貸) 貸倒引当金 2,000
 -費用- -売掛金の評価勘定-

※ 貸倒引当金繰入額

残高試算表 決算日に判明した事項 3.

売掛金期末残高 ¥250,000 (¥270,000 - ¥20,000)

貸倒引当金繰入額 $\frac{\text{売掛金}}{\text{貸倒引当金残高 (残高試算表)}} \times 2\% - \text{貸倒引当金繰入額} = \text{貸倒引当金繰入額}$
 $\frac{¥250,000}{¥270,000 - ¥20,000} \times 2\% - ¥3,000 = ¥2,000$

5. 売上原価の計算

新版日商簿記 3 級テキスト p.143 ①

(借) 仕入 226,000 (貸) 繰越商品 226,000 … 期首商品棚卸高 (残高試算表「繰越商品」)
 (借) 繰越商品 189,000 (貸) 仕入 189,000 … 期末商品棚卸高 (問題文に指示)

6. 固定資産の減価償却費を計上 (定額法・間接法)

新版日商簿記 3 級テキスト p.154 ②

(借) 減価償却費 119,000 (貸) 建物減価償却累計額 29,000
 -費用- 備品減価償却累計額 90,000

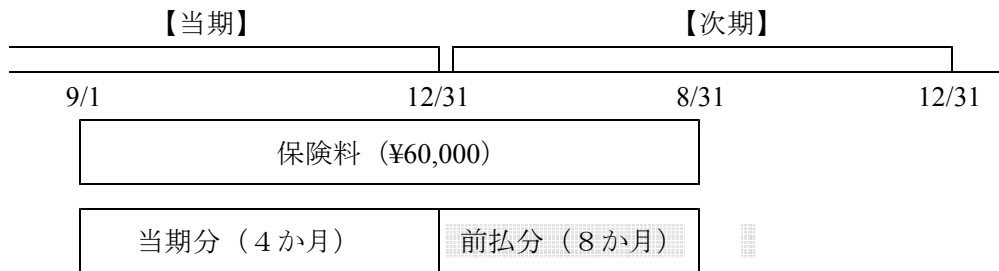
※減価償却費の計算 [建物] 取得原価 ¥870,000 ÷ 耐用年数 (30 年) = ¥29,000
 [備品] 取得原価 ¥360,000 ÷ 耐用年数 (4 年) = ¥90,000

7. 前払家賃の計上 (費用の繰延べ)

新版日商簿記 3 級テキスト p.160

(借) 前払保険料 40,000 (貸) 保 険 料 40,000

— 資 産 —



保険料 1 年分支払い

※保険料勘定に¥100,000 記帳されているが、そのうちの¥60,000 については、当期分は 4 か月分であり、残り 8 か月分が前払い (未経過) である。そこで、前払分を次期に繰り延べるため、保険料勘定から前払保険料勘定 (資産) に振り替える。

$$\text{前払保険料} \quad ¥60,000 \times \frac{8 \text{ か月 (前払分)}}{12 \text{ か月}} = ¥40,000$$

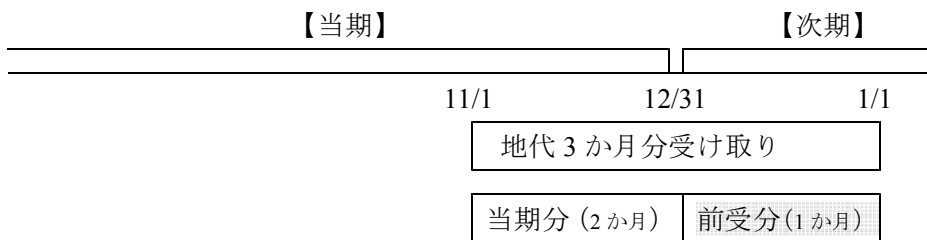
※ 前払保険料勘定は資産の勘定である。

8. 前受収益の計上

新版日商簿記 3 級テキスト p.160

(借) 受取家賃 15,000 (貸) 前受家賃 15,000

— 負 債 —



地代 3 か月分前受

※受取家賃勘定に¥45,000 記帳されているが、そのうちの 2 か月分は当期分であり、残り 1 か月分は前受分である。

前受分は次期に繰り延べるため、受取家賃勘定から前受家賃勘定 (負債) に振り替える。

※ 前受家賃勘定は負債の勘定である。

9. 未払費用の計上

新版日商簿記 3 級テキスト p.165 ①

(借) 給 料 37,000 (貸) 未払給料 37,000
 -負債-

- ※ 給料の未払額を当期の費用として給料勘定に計上するとともに、未払給料という負債の勘定を設けてその貸方に記入する。
- ※ 未払給料勘定は負債の勘定である。

- 精算表を作成する -

新版日商簿記 3 級テキスト p.172

1. 勘定科目ごとに、残高試算表欄の金額と修正記入欄の金額を加減し、その結果を損益計算書欄または貸借対照表欄に記入する。そのさい以下のことに注意する。

(1) 金額を加減するとき、貸借同じ側にある金額は加算し、反対側にある金額は減算する。

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	226,000 ①		189,000 ②	226,000 ③			189,000 ④	

※ ①と同じ借方にある②は加算し、反対側にある③は減算する。

(2) 資産・負債・純資産の各勘定の金額は貸借対照表欄に移記し、収益・費用の各勘定の金額は損益計算書欄に移記する。

2. 精算表を作成するにあたって次の勘定科目が何の勘定か間違えないようにする。

新版日商簿記 3 級テキスト p.173

前払保険料 … 資 産
 前受家賃・未払給料 … 負 債
 貸倒引当金繰入・減価償却費 … 費 用

※貸倒引当金勘定は売掛金の評価勘定であり、備品減価償却累計額は備品の評価勘定である。

精算表を作成するときはいずれも貸借対照表の貸方の側に記載する。

3. 損益計算書欄および貸借対照表欄の借方・貸方の金額をそれぞれ合計し、その差額を当期純損益の行のそれぞれ金額の少ない側に記入する。なお、

(1) P/L (損益計算書) の借方と B/S (貸借対照表) の貸方に差額を記入したときは、差額を記入したと同じ行の勘定科目欄に「当期純利益」と記入する。もし、P/L の貸方と B/S の借方に差額を記入したときは当期純損失となる。

(2) 各欄の借方・貸方の金額を合計し、合計金額を記入する。